

カレント自動車(7690)

中古輸入車への需要は引き続き堅調に推移。蓄積データ・ノウハウ活用の「カーテック」分野進出が成長の鍵

TOKYO PRO Market | 自動車卸売 | 業績フォロー

BLOOMBERG 7690:JP | REUTERS 7690.T

- 2021/10 通期は、売上高が前期比 91.0%増、営業利益が同 76.1%増、経常利益が同 72.4%増、当期利益が同 66.4%増の増収増益だった。
- 半導体不足等による新車の供給不足から中古車の需要が高まったほか、オートオークションへの出品車の増加が増収増益に貢献した。
- 輸入車・旧車に特化して蓄積してきたデータやノウハウ活用による「カーテック」分野（自動車×情報）への進出が成長の鍵を握ろう。

What is the news?

12/15発表の2021/10通期は、売上高が前期比91.0%増の57.74億円、営業利益が同76.1%増の4.04億円、経常利益が同72.4%増の3.96億円、当期利益が同66.4%増の2.63億円の増収増益だった。

新車の納期遅延等が影響し、在庫があり即納が可能な中古車の需要が一層高まる中で、同社のオートオークションへの出品車両も増加し増収増益となった。

部門ごとの売上高は以下の通り。①輸入車買取事業、②輸入車販売事業を展開する「車両部門」は、前期比2.1倍の51.70億円だった。③IT事業、④パーツサプライ事業、⑤修理・整備事業、⑥整備ネットワーク事業、⑦その他事業から構成される「車両関連部門」は同5.0%増の6.04億円だった。

また、同社の主要取引先で中古車オークションの運営を行うユー・エス・エス(4732)向けの売上高は前期比2.2倍の45.93億円となり、売上構成比が同10.7ポイント上昇の79.5%となった。

How do we view this?

2022/10通期の会社計画は、売上高が前期比29.9%増の75億円、営業利益が同23.6%増の5.0億円、経常利益が同23.7%増の4.9億円、当期利益が同25.2%増の3.3億円である。新型コロナの影響が見込まれる中、同社は、中古輸入車に対する需要が引き続き堅調に推移すると想定し、強みであるITを活用した施策の遂行により、主力の買取事業を中心に更なる市場開拓を進めるとしている。

同社の主要取引先であるユー・エス・エスが1月に公表した2021年12月の中古車の平均落札価格は、前年同月比21%上昇の93万2000円と19カ月連続で前年同月を上回った。コロナ禍の下、自動車は人との接触を回避できる移動手段として需要が回復しているものの、半導体不足等により新車の減産が相次いでいるため中古車市場においても出品台数の減少による需給のひっ迫から価格が上昇。当面は同社も恩恵を受けよう。

中長期的な成長に向けては、同社が長年特化してきた輸入車・旧車に関する蓄積されたデータやノウハウの強みを生かした「カーテック」分野（自動車×情報）への進出が焦点となろう。

業績推移

事業年度	2019/10	2020/10	2021/10	2022/10F
売上高(百万円)	2,327	3,023	5,774	7,500
経常利益(百万円)	125	229	396	490
当期利益(百万円)	64	158	263	330
EPS(円)	107.97	263.96	439.29	550.00
PER(倍)	19.45	7.96	4.78	3.82
BPS(円)	185.89	450.55	871.26	-
PBR(倍)	11.30	4.66	2.41	-
配当(円)	-	-	-	-
配当利回り(%)	-	-	-	-

(※)2020/2/27付で普通株式1株につき3,000株の割合で株式分割を実施したが、2018/10期の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPS、BPSを算定している。(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)



フィリップ証券

A Member of PhillipCapital

フィリップ証券株式会社

配当予想(円) - (会社予想)
株価(円) 2,100 2022/2/22(基準値)

会社概要

2000年に代表取締役社長の江頭大介氏が中古輸入車の買取・販売を目的として横浜市で設立。同社グループは自動車のアフターマーケット領域で事業を展開している。事業セグメントは「車両およびその関連事業」の単一セグメントだが、単一セグメントによるリスクを回避すべく周辺事業を多角展開し、以下の7事業を手掛けている。

車両部門は、①自社運営のWEBサイト「外車王」を通じて中古車の買取を行い、オートオークションを通じて市場への再流通を行う「輸入車買取事業」、②自社の輸入名車専門店より、車好きのマニア層に人気の高い中古車モデルを販売する「輸入車販売事業」から構成される。2020/5/20にTOKYO PRO Marketへ上場を果たした。

車両関連部門は、③「外車王」における買取査定依頼案件を提携パートナーに紹介する「IT事業」、④整備事業者への卸売りや自社運営のECサイト「EURO AUTO」を通じた販売により輸入車に特化したパーツの供給事業を行う「パーツサプライ事業」、⑤車両整備工場の運営とともに、「ドクター輸入車」の旗艦店としての機能も併せ持つ「修理・整備事業」、⑥輸入車整備に特化した整備事業の「ドクター輸入車」のフランチャイズ本部を運営する「整備ネットワーク事業」、⑦クラシックカーの電気自動車へのコンバート(変換)サービス、レンタカーサービスなどを行う「その他事業」から構成される。

企業データ



(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

主要株主 (2022/1/31)	(%)
1. ディーイー工業合同会社	40.00
1. 江頭 大介	40.00
3. 竹下 智彦	10.00
4. 渡辺 一世	5.00

(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

山口 亮太

ryota.yamaguchi@phillip.co.jp
+81 3 3666 0707

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
日本証券アナリスト協会検定会員 山口亮太

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

- ・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。